

総理大臣秘書官
山田 真貴子
Makiko Yamada

Annual Me

経歴

昭和59年 4月	郵政省採用	平成15年 6月	同 総合通信基盤局総務課調査官
8月	同 通信政策局国際企画課	平成16年 2月	世田谷区助役
昭和62年 7月	英国留学 (ロンドン大学)	平成19年 4月	同 副区長
昭和63年 6月	郵政省放送行政局業務課国際放送係長	平成19年 7月	総務省総合通信基盤局国際部国際政策課長
平成 2年 7月	下田郵便局長	平成20年 7月	同 情報通信国際戦略局国際政策課長
平成 3年 6月	郵政省貯金局営業課課長補佐	平成21年 7月	同 総合通信基盤局総務課長
平成 6年 7月	同 大臣官房国際部国際政策課課長補佐	平成22年 7月	同 大臣官房会計課長
平成 9年 7月	同 大臣官房人事部人材開発課調査官	平成23年 7月	同 情報通信国際戦略局参事官
平成11年 7月	文部省学術国際局学術情報課学術情報基盤整備推進室長	平成25年 6月	経済産業省大臣官房審議官 (IT戦略担当) 併任 総務省総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課 商務情報政策局付
平成13年 7月	総務省総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課 電気通信利用環境整備室長	平成25年 11月	現職

総理秘書官、妻そして母として

PROJECT >>>>

総理秘書官の仕事

内閣総理大臣のサポート役として、日々の様々な仕事に同行するとともに、内外の重要政策について総理のご意向を踏まえて立案、調整を行います。また、総理官邸のスポークスマンとしてマスコミに情報提供を行うとともに、政策に関する情報発信の場作りを行い、適切なタイミングと方法で広報を行います。

ダボス会議にて、安倍総理と Facebook 社 COO シェリル・サンドバーグ氏とともに (筆者左)

総理官邸での業務とは、
そして「総理秘書官」とは

私は昨年11月末から安倍総理大臣秘書官として、総理官邸で勤務しています。憲政史上初の「女性」総理大臣秘書官として、任命直後はメディアにも取り上げて頂いていたようですので、ご存知の方もおられるでしょう。

現在、総理官邸には、政務秘書官が1人、そして事務秘書官が私を含め6名任命されています(出身省庁は財務省、経産省、警察庁、外務省、防衛省。それに私です。)。幅広い国政を秘書官で分担し、相互に調整し、また官邸内の様々な役職の方々とも議論した上で、総理にご判断を仰いでいきます。

私自身はICT政策、女性活用推進策、地域活性化政策等を担当するとともに、広報、マスコミ対応もやっています。休日も含め、メディアの方々からの問い合わせが頻繁にあります。毎日、朝、晩に記者の方々から取材がありますし、未明に電話が入ることも少なくありません。常に、情報をキャッチし、背景を調べ、対応を関係秘書官と相談し、マスコミ対応に備えていきます。24時間、365日、緊張の連続と言っても過言ではありません。携帯電話はいつも手放すことができません。(お風呂に入るときも、携帯電話を風呂の扉のすぐ外に置いています(笑))

我が国では、総理が国会に出席される機会が大変に多いので、国会対応も重要な仕事のひとつです。国会開会前には、施政方針演説等を官邸内で練り上げていきます。国会が始まりますと、本会議、予算委員会と息つく間もない毎日が始まります。総理はコ

ーモアも交えて見事なご答弁をされますが、その基礎資料を準備するのは私たちの仕事。各省から提出される資料を官邸の考えに合わせて手直して頂いたり、事実関係を確認したり。結局、明け方まで作業が続くことも多いのです。国会審議本番では、閣僚席の後ろに控えていなくてはなりません。

安倍総理は「地球儀を俯瞰する外交」を掲げ、1年間で31か国を訪問し、150回以上の首脳会談をこなされました。その外遊に同行するのも秘書官の重要な仕事です。私が今の仕事に着任してまだ2か月あまりですが、その間にすでに、4回の海外出張をこなされています。アフリカ・中東訪問、ダボスでの世界経済フォーラム出席、インド訪問、ソチオリンピック開会式出席と日露首脳会談。会談に同席する場合もありますし、同行記者との対応も秘書官の大切な仕事です。外交はやはりトップ同士の話し合い、お付き合い、信頼関係の構築が全ての基本。総理は、世界に貢献する「積極的平和主義」を推進されており、秘書官が協力して、少しでもそれを支える力になりたいと思っています。

とはいえ、私自身、まだ着任して日も浅く、恥ずかしながら、戸惑いと失敗の連続です。1日として同じような日はなく、常にめまぐるしく物事が動いていく状況に対応しなくてはなりません。安倍政権が発足して1年余りになりますが、成熟国家を再生させつつある経済政策「アベノミクス」は世界を驚かせ、国際社会の注目が日本に改めて集まっていることをひしひしと感じます。それだけに、総理官邸の仕事も重い。気の抜けない日々ですが、それだけにやりがいもひとしおです。

家庭のこと

毎日が緊張の連続ですので、何より家庭での時間が私自身の支えです。総務省の同僚である夫と間もなく高校生になる息子との3人という小さな家庭ですが、私の仕事を理解し、自然体で接してくれる2人の男性に頭が上がりません。今の仕事に就いて以来、海外出張も多く、土日を含めて家族と過ごす時間は激減していますが、それでも、たまの休みにゆっくり食事をして他愛もない話をするのが何よりの息抜きです。

今までの仕事のこと

1984年に就職して以来、情報通信政策を中心に仕事をしてきました。インターネット上の情報の流通ルールを定める法案を立案したり、日本のICT技術を海外に売り込んだり。また、ICT以外でも、英国留学、ベルギーでの国際機関勤務など海外経験。世田谷区副区長として住民密着の行政の経験。総務省の17兆円に及ぶ予算・決算の責任者である会計課長の経験。ひとつひとつが自分の糧になっています。

公務員を志す皆さんへ

これと言って人より優れたことがある訳ではない、ごく普通の「女性」であり「妻そして母」である私ですが、仕事と同僚には恵まれてきました。心がけてきたことは、目の前の仕事をとにかく、誠実に精一杯やることに尽きます。1月に出席したダボス会議では「Japan is back!」と受け止められていることをひしひしと感じました。これからの世界を引っ張る日本の航海図を決めていく仕事、その醍醐味を味わうべく、是非みなさんも挑戦してください! 厳しいながらも、密度の濃い人生が貴方・貴女を待っています。



首相官邸での辞令交付式